

お知らせ

今後のイベント開催予定です。奮ってご参加下さい！(詳細はAPIRのホームページに掲載しています)

10月31日/APIRフォーラム「東京2020オリンピックと関西経済」

【講師】水野 正人氏(ミズノ株式会社社長)他

11月 7日/うめきた研究会(第4回)「防災とうめきた」

【講師】河田 恵昭氏(関西大学社会安全学部社会安全研究センター長・教授)

12月 2日/景気討論会

【講師】稲田 義久(APIR数量経済分析センター センター長)他

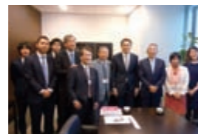
参加申込方法

企業・団体名、所属・役職、お名前、連絡先(TEL、FAX、E-mail)を明記の上、E-mail(kouenkai@apir.or.jp) または FAX(06-6485-7689)にてお申込み下さい。また、当研究所ホームページ(http://www.apir.or.jp)からもお申込みいただけます。

活動状況

2014年4月-9月

- 4月 4日 タイ王国大阪総領事ご来訪
- 4月22日 アメリカ・クリントン政権シェルバ Robert Fauver氏との懇談会
- 4月24日 英語版『関西経済白書』 "2013 Kansai in the Asia Pacific"発行
- 4月25日 関西労働研究会
- 4月28日 平成25年度公認会計士監査
- 5月12日 APIR・APU(立命館アジア太平洋大学) 連携協定調印イベント「今、地球水準～世界から『選ばれる関西』を目指して」
- 5月14日 監事監査
- 5月15日 「関西の成長牽引産業の展望フェーズII」第1回研究会
- 5月20日 「関西企業におけるイノベーションと人材研究」2013年度成果報告記者発表
- 5月23日 平成26年度通常理事会
- 5月23日 関西労働研究会
- 5月27日 「第99回景気分析と予測」および「関西エコミックインサイトNo.22」記者発表
- 5月30日 「日系企業アジア地域のサプライチェーンのあり方」第1回研究会
- 6月 3日 平成26年度定時評議員会
- 6月24日 「中小企業等のイノベーションの原動力」第1回研究会
- 6月27日 関西労働研究会
- 6月30日 イギリス財務省日本担当エコノミスト Sarah Foley氏との意見交換
- 6月30日 「アジア太平洋研究所(APIR)事業活動の充実に向けて」プレスリリース
- 7月 1日 数量経済分析センター 設置
- 7月 2日 「中小企業の東南アジア進出に関する国際比較」第1回研究会



▶4月4日 タイ王国大阪総領事ご来訪



▶4月24日 英語版『関西経済白書』"2013 Kansai in the Asia Pacific"発行

- 7月 4日 スペイン大使館経済商務部との懇談会
- 7月 8日 APIR・GRIPS共催セミナー企画「新段階に入った中小企業の海外展開支援」
- 7月 9日 ドイツ・ニーダーザクセン州政府訪日団・ドイツ総領事との意見交換
- 7月14日 「東アジアにおける持続可能性のある高齢化社会構築のための方策」第1回研究会
- 7月18日 「高齢化社会における市場の変化の方向性」第1回研究会
- 7月25日 関西労働研究会
- 7月25日 「日系企業アジア地域のサプライチェーンのあり方」第2回研究会
- 8月 6日 「日本の対アジア太平洋外交政策と通商政策のあり方」第1回研究会
- 8月26日 「第101回景気分析と予測」および「関西エコミックインサイトNo.23」記者発表
- 8月27日 第1回うめきた研究会「公共空間創出とうめきた」
- 8月28日 第1回マクロ経済分析プロジェクト研究会
- 9月 2日 APIRフォーラム「足下の景気がよく分かる!!-日米超短期モデル予測とESPフォーキャスト調査の見方・使い方-」(日本経済研究センターと共催)
- 9月 5日 「高度外国人材受入促進のための実践的研究」第1回研究会
- 9月11日 『2014年版関西経済白書』記者説明会
- 9月12・13日 マクロモデル研究会(第8回)
- 9月13・14日 第17回労働経済学コンファレンス
- 9月16日 事業報告・関西経済白書発表会
- 9月29日 第2回うめきた研究会「医療・健康とうめきた」1日目『『未来医療が切り拓く明日の大阪・明日の日本』
- 9月30日 第2回うめきた研究会「医療・健康とうめきた」2日目「脳科学で拓くおもしろ大阪」



▶7月9日 ドイツ・ニーダーザクセン州政府訪日団・ドイツ総領事との意見交換



▶9月12・13日 マクロモデル研究会(第8回)

編集後記

機関誌の編集担当となつてまず考えたこと。それは「見た目も中身も洗練された機関誌にしたい」ということでした。なぜか? 巻頭言の宮原所長の写真にご注目下さい。胸ポケットに紫色のポケットチーフがさりげなくのぞいています。私が初めて所長に会った時、ジャケットの左襟には「M」のピンブローチが輝いていました。「洗練された機関誌にしたい」と思ったのは、いつもおしゃれな所長の存在によるところが大きいのです。

そしてAPIRは、JR大阪駅北側の再開発地区「うめきた」の、グランフロント大阪の中にあります。ここにはショップやレストランの他に、APIRが入居する知的創造拠点ナレッジキャピタルがあり、消費を楽しむ人々だけではなく「何かを生み出したい」と願う人々も集まってきます。それによって、ここには他にはない独特の「知的な賑わい」が生まれつつあります。所長の洗練とともにこの賑わいも、誌上に反映させていけたらと思っています。(真鍋)

APIR Now No.1/2014年10月 [季刊]

一般財団法人 アジア太平洋研究所
ASIA PACIFIC INSTITUTE OF RESEARCH

評議員会会長: 井上礼之(ダイキン工業株式会社取締役会長 兼 グローバルグループ代表執行役員)
理事・所長: 宮原秀夫(大阪大学 元総長)
理事・副所長・事務局長: 澤 昭裕(21世紀政策研究所研究主幹)
代表理事: 岩城吉信
研究統括: 林 敏彦(大阪大学名誉教授)
数量経済分析センター センター長: 稲田義久(甲南大学副学長)
アドバイザー: 猪木武徳(青山学院大学特任教授)/鷲田清一(大谷大学教授)

【発行】一般財団法人 アジア太平洋研究所
発行人: 岩城吉信
編集担当: 岡田直樹・真鍋 綾(アウトリーチ(普及・広報)推進チーム)
本誌に関するご意見・ご感想をcontact@apir.or.jpまでお寄せ下さい。
本誌掲載の役職名は会合開催当時のものです。
本誌掲載記事・写真の無断転載を禁じます。

〒530-0011 大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪 ナレッジキャピタル タワーC 7階 TEL 06-6485-7692 (アウトリーチ(普及・広報)推進チーム) FAX 06-6485-7689
E-mail contact@apir.or.jp ホームページ http://www.apir.or.jp

☆メルマガ「APIR」配信登録は左記ホームページよりどうぞ!

APIR Now

No.1

OCTOBER
2014

- 創刊号 -

関西から
アジアを視る

CONTENTS

巻頭言

宮原 秀夫 アジア太平洋研究所所長

Research Project

「うめきた研究会」とは

Research Report

「関西経済白書」に込めた思い

Economic Forecast

APIRの「景気分析と予測」

Topics

APIR×APU 連携協定調印イベント

Information

APIR

グランフロント大阪 タワーC

他にはできない研究に取り組む 「唯一無二のシンクタンク」になる。



みやはら ひでお
宮原 秀夫

一般財団法人 アジア太平洋研究所 理事・所長

大阪大学大学院工学研究科博士課程修了。京都大学工学部助手、大阪大学基礎工学部助教授・教授等を経て、大阪大学大学院情報科学研究科長等を歴任後、2003年～2007年大阪大学総長。2007年独立行政法人情報通信研究機構理事長（～2013年3月）、2011年12月より一般財団法人アジア太平洋研究所理事・所長。

関西に拠点を置くアジア太平洋研究所(APIR)は、アジアの課題を解決するという理念と、関西の歴史あるシンクタンク、関西社会経済研究所の機能を引き継いで誕生しました。しかしいま、その成り立ちの殻を破り、本来果たすべき使命の追求に情熱を燃やしています。宮原秀夫所長に聞きました。

機関誌創刊ー思いを届けたい

APIRは、2011年12月に誕生したシンクタンクです。それがいま、改めて機関誌を創刊したのは、皆様に私たちの思いをストレートに届けたい、との願いがあったからです。関西が日本・アジアに貢献するために、関西の経済界が持つ唯一無二のシンクタンクである私たちが、何を目指し、何を果たそうとしているのか。それを経営

トップの皆様にご覧いただきたいのです。多忙を極める皆様がわずかな時間で読めるよう、分かりやすく簡潔な編集を心がけていますので、どうぞ一読ください。

さて、「真に独立したシンクタンクになる」。これがいま、私たちが果たさなければならぬ使命だと思っています。APIRは、関西を中心とする約170社の会員企業に支えられたシンクタンク

です。特定の企業や政府の影響を受けない中立的な立場にあるという点が、他のシンクタンクとは大きく違います。

しかし、大学の研究者が提示した研究テーマに資金提供するだけの機関、という印象を持たれている方もおられますし、極端な言い方ですが、「シンクタンクなんてどこも同じ」と思っている方も多いかもかもしれません。

ですが、私たちはそこから脱却する決意を固めています。中立性の高い機関であるからこそ、その立場を活かして、私たち自身が独自にテーマを決めて世に打ち出す。これがまず重要だと考えています。

利害を越える勇気を持つ

多様な企業が会員だという性質上、「角が立たない研究を」と配慮するあまり、研究員が独自テーマをなかなか打ち出せない現実もあります。でも、

あえて私は「勇気を持って」と言っています。どの企業にとっても当たり障りのない最大公約数的な研究なら、他でもできます。しかしそれでは、私たちの持つ中立的な立場を活かし切ることはできません。

例えば「エネルギー」の問題には、非常にたくさんの利害が絡みます。それに巻き込まれると、研究もまた公益性を欠きます。これでは、社会に横たわる問題を解決に導くことはできない。利害を越えて、世の中の関心が高いナイーブな問題にもあえて踏み込み、研究の知を集めて向き合う。こうしたスタンスで臨むことが、「こんな研究を待っていた」と言われるような成果を生むことになると考えています。

最初からすぐに成果は出ないかもしれませんが。誰もやりたがらなかったテーマであるほど、解を導き出すのは至難の業です。しかし、だからこそ価値がある。時間がかかろうとも、私は結果を焦らず待つつもりです。

関西は「アジア」が集まる場所

ところで、アジアを研究の範囲としながら、なぜAPIRは関西に本拠地を構えるのか。そこには意味があります。

関西は、観光、人材、ビジネス、あらゆる面でアジアと密接につながって

います。ここを起点に考えれば、自然とアジア全体が見えてくるのです。例えば、関西に滞在するアジア各国の留学生を調査対象にするだけで、アジア地域が抱える課題を浮き彫りにできます。

アジアから関西を俯瞰するのではなく、関西からアジアを見通す研究機関となる。この視点は、研究員を育成する上でも重要です。APIRが、日本にいながらアジアを展望できる重要な研究拠点となれば、企業からの出向者を含めた研究員は、自分の視野を広げながら研究スキルを高めていくことができます。

私は、このような環境を最大限に活かして、APIRを、広い視野を持った若手研究員の登竜門にしたいと考えています。実績を積んだあと、他の研究機関や大学に移ってもかまいません。ここで手がけた研究が自分のステップアップに結びつき、研究者としてのステータスとなれば本望です。

うめきたに叡智を集め、世界に発信する

このような思いで取り組んでいる活動を、一つご紹介します。このほど、世界の中の「うめきた(大阪)」戦略を

考える産官学フォーラム「うめきた研究会」を企画しました。うめきたは、大阪の玄関口JR大阪駅北部に広がる、関西に残された数少ない都市開発の拠点です。ここを、日本屈指の知の集積地にせずして何とする、という覚悟にも似た思いを持っています。

私はうめきた研究会を、都市計画、医療・健康、大学、防災などのテーマについて、APIRの研究員、大学の研究者、企業、各分野の専門家らが自由に語り合う「知が交流する場」にしたかったのです。APIRもまた、うめきたの中核拠点「ナレッジキャピタル」にありますが、このような場で、普段は研究所にこもりがちな研究者たちが、一般の人をはじめとする様々な人と出会い、市民感覚を磨いてほしいと思っています。

「アジアのことならAPIRに聞こう」

知を通して関西が一つになる。この壮大な目的のために、うめきたから私たちにしかできない研究を発信し、会員企業をはじめとする皆様に「アジアのことならAPIRに聞こう」と思っていただく。そして、政策立案やビジネス戦略策定に貢献していく。それが、私たちの目指す本来の姿であり、未来のAPIR像なのです。



「うめきた研究会」とは

～世界の中の「うめきた(大阪)」戦略を考える～

うめきた開発を、みんなで考える。APIRがその先頭に立ちます。

いま、大阪・関西で最も話題性があり、日本全体としても注目される「うめきた」開発(JR大阪駅北側再開発)は、わが国の国際競争力強化、国土強靱化拠点として計画されています。緑を中心としたまちづくり方針の中で具体的にどのような環境や都市機能、運営手法が必要なのか問われています。APIRでは最終開発案指針及び開発事業者提案の参考となるアイデアを市民、利用者の視点から検討するため、産官学における専門家を招いて公開の研究会(全4回)を開催します。

【企画チーム】 主査
岡部 明子氏(千葉大学大学院工学研究科教授)
Vicente Guallart氏(the Chief Architect of Barcelona City Council, Spain)
楠見 晴重氏(関西大学学長)
澤 芳樹氏(大阪大学大学院医学系研究科副研究科長・教授、臨床工学融合研究教育センター長)
西尾章治郎氏(大阪大学大学院情報科学研究科・教授、サイバーメディアセンター長、元理事・副学長)
野村 卓也氏(関西大学客員教授、株式会社スーパーステーション社長)



【第1回研究会】

公共空間創出とうめきた

日時:8月27日 開催

講師:Vicente Guallart氏(前出)



公共空間戦略による都市再生「バルセロナ・モデル」のその後の展開とうめきたへの活用ポイントを、バルセロナ市チーフアーキテクトVicente Guallart氏を交えて探りました。

【第2回研究会】

医療・健康とうめきた

日時:9月29日・30日 開催

講師:澤 芳樹氏(前出)



柳田敏雄氏(情報通信研究機構/大阪大学 脳情報通信融合研究センター長)

国家戦略特区としての先進医療産業推進や日本医療研究開発機構の拠点化など、大阪・関西として期待の高いテーマをうめきたの新しい都市機能としていかに展開すれば有効かを探りました。

【第3回研究会】

大学とうめきた

日時:10月17日 開催

パネリスト:
平野俊夫氏(大阪大学総長)/内田一徳氏(神戸大学理事 副学長)
楠見晴重氏(前出)/村田 治氏(関西学院大学学長)

大学改革や大規模オンライン講座、世界に開くあり方など新しい大学像創出と新時代に対応できる人材育成が求められる大学がうめきたに何を期待するかを聴きました。

【第4回研究会】

防災とうめきた

日時:11月7日 開催予定

講師:河田恵昭氏(関西大学社会安全学部 社会安全研究センター長・教授)

※研究会にはどなたでも参加できます(事前申込制、先着順)。

2014年度 16の研究プロジェクト

- ・中小企業の東南アジア進出に関する比較研究
- ・日系企業アジア地域のサプライチェーンのあり方
- ・日本の対アジア太平洋外交政策と通商政策のあり方
- ・日米の超短期経済予測
- ・世界の人口と経済に関する超長期データベース構築
- ・アジアの自然災害リスクへの対処
- ・東アジアにおける持続可能性のある高齢化社会構築のための方策
- ・高齢化社会における市場の変化の方向性
- ・関西地域の成長牽引産業の展望 フェーズII
- ・中小企業等のイノベーションの原動力分析
- ・関西における21世紀型ツーリズム構築
- ・日本及び関西経済の短期予測
- ・新しいマクロ経済モデルの応用試行
- ・高度外国人材受入促進のための実践的研究
- ・エネルギーインフラ研究会
- ・うめきた研究会

「関西経済白書」に込めた思い

関西の発展に挑戦する、すべての人へ。

未来を見据え、アジア太平洋の今と
関西経済の成長戦略を論じた一冊。

APIRでは、個々の研究プロジェクトの成果報告書をホームページに掲載しており、どなたでも読むことができます。また、市販の書籍として『関西経済白書』を年1回発行しています。この白書はAPIRの前身から引き継ぎ、関西経済を知るための必読書として親しまれてきました。APIRとなってからはアジア太平洋地域に研究対象を広げ、また英語版も発行しています。9月に発行した『2014年版 関西経済白書』をご紹介します。



『2014年版 関西経済白書 —KANSAI発のイノベーションとは何か—』

国内市場縮小 —アジアの活力を取り込め—

今年の白書は人口問題の重要性を強く意識しました。関西では高齢化のスピードが全国よりも早く、多くの領域でより鮮明に影響が出てくるからです。国内市場が縮小化の傾向を示す中で、いかに付加価値生産性を高め、人々の生活水準を維持向上させていくか。その解決策は、成長するアジア太平洋経済との関係強化と、国内市場の開拓に求めるほかないと考えました。

こうした観点から、白書第I部では、アジア太平洋地域の各国事情を定点観測しながら、貿易を通して関西経済とのかかわりを考えました。また、アジアのビジネス・インフラとバリューチェーンに焦点を当てた分析も行っています。これらは海外展開を目指す企業やそれをサポートする自治体にとって重要な情報提供になると考えます。



▶事業報告・関西経済白書発表会の様子(9月16日開催)

関西復権の鍵は女性活用にある

第II部では関西の長期低迷の原因を徹底的に分析しました。また、関西経済には労働供給面で大きな伸び代があることもわかりました。特に関西では女性の就業率が低く、女性の労働参加促進が関西復権の鍵であると提言しています。また、関西のイノベー

ションのための処方箋の検討、有望な成長牽引産業の分析も行いました。

このように白書には、関西の発展に資する多くの提案、知見、ヒントが含まれています。企業、政策担当者、市民、研究者、学生の皆さん、関西の発展に挑戦するすべての方に、ご活用いただけるものとなっております。

※大手書店(旭屋書店、紀伊国屋書店、ジュンク堂書店 他)にて定価2,571円(税込)で発売中です。
※「かんぼう政府刊行物オンラインブックストア」でオンライン購入もできます。

目次

| | |
|---------------------------------|---|
| 【第I部】 アジア太平洋は、いま | ・第1章 アジア太平洋各国事情 ・第2章 アジアのビジネス・インフラ ・第3章 日本企業とアジアのバリューチェーン |
| 【第II部】 関西経済:自信と輝きを 取り戻せるか | ・第4章 日本・関西経済の回顧と展望 ・第5章 最近の経済事象から見る関西の課題 ・第6章 関西経済の復権に向けて —長期低迷の分析— ・第7章 クローズアップ、関西のイノベーション ・第8章 アジアに輝け、有望な成長牽引産業 |

APIRの「景気分析と予測」

経済指標を駆使して
経済を読み解き、予測し、提言する。

新たな研究ユニットが始動、さらなる予測能力の向上を図ります。

APIRでは、日本経済・米国経済そして関西経済の予測と分析を定期的に行い、ホームページで公表しています(週次・月次・四半期)。7月1日、経済分析・予測機能の強化等を目的に、APIR内の研究ユニットとして「数量経済分析センター※」を設置しました。センター長は稲田義久 甲南大学副学長です。

※英文名称:APIR-CQEA (Center for Quantitative Economic Analysis)



数量経済分析センター センター長
稲田 義久

第101回 景気分析と予測/関西エコノミックインサイト No.23

2014年8月26日

◆日本経済は4-6月期GDP1次速報値を織り込んで実質GDP成長率を2014年度+0.4%、15年度+1.4%、16年度+1.3%と予測、また最新の日本経済予測の結果を

織り込んで関西の実質GRP成長率を2014年度+0.9%、15年度+1.6%、16年度+1.5%と予測。
◆関西経済は消費増税に伴う駆け込み需要の反動減は軽微。緩や

かながら立ち直りの動きを見せており、その足取りは全国よりも順調。
◆女性の就業率が低い関西。女性を中心とした人手不足の解消が求められる。

▶予測結果の概要

| 年度 | 関西経済 | | | | | | 日本経済 | | | | | |
|-----------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|------|
| | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 |
| 民間最終消費支出 | 0.9 | 1.5 | 2.0 | ▲1.6 | 0.7 | 0.6 | 1.4 | 1.5 | 2.5 | ▲2.2 | 1.2 | 1.2 |
| 民間住宅 | ▲0.2 | 7.5 | 8.3 | ▲6.2 | 1.3 | 3.4 | 3.2 | 5.4 | 9.5 | ▲10.6 | ▲5.1 | 1.1 |
| 民間企業設備 | ▲3.6 | 2.8 | 3.9 | 4.9 | 2.5 | 3.4 | 4.8 | 0.7 | 2.7 | 4.8 | 3.1 | 2.1 |
| 政府最終消費支出 | 3.7 | 1.2 | 1.5 | 0.8 | 1.0 | 0.6 | 1.2 | 1.5 | 1.8 | 0.9 | 1.0 | 0.6 |
| 公的固定資本形成 | ▲10.8 | 1.7 | 9.2 | 1.2 | ▲2.6 | 0.0 | ▲3.2 | 1.3 | 15.1 | 2.6 | ▲1.3 | 0.0 |
| 輸出 | ▲1.4 | ▲2.8 | 0.2 | 4.6 | 4.2 | 1.7 | ▲1.6 | ▲1.3 | 4.8 | 5.3 | 4.7 | 3.1 |
| 輸入 | 5.2 | 2.3 | 1.9 | 1.6 | 2.8 | 0.7 | 5.3 | 3.6 | 7.0 | 2.1 | 3.1 | 1.7 |
| 実質域内総生産 | 0.9 | ▲0.3 | 2.0 | 0.9 | 1.6 | 1.5 | 0.3 | 0.7 | 2.3 | 0.4 | 1.4 | 1.3 |
| 民間需要(寄与度) | 0.5 | 1.1 | 1.9 | ▲0.2 | 0.8 | 0.9 | 1.2 | 1.0 | 1.6 | ▲0.4 | 0.9 | 1.0 |
| 公的需要(寄与度) | 0.3 | 0.3 | 0.5 | 0.2 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 0.3 | 0.9 | 0.3 | 0.1 | 0.1 |
| 外需(寄与度) | 0.1 | ▲1.7 | ▲0.5 | 1.0 | 0.6 | 0.5 | ▲1.0 | ▲0.7 | ▲0.2 | 0.5 | 0.3 | 0.3 |
| 名目域内総生産 | ▲0.2 | ▲1.1 | 1.5 | 3.2 | 3.1 | 3.1 | ▲1.4 | ▲0.2 | 1.9 | 2.3 | 1.9 | 2.9 |
| GRPデフレータ | ▲0.7 | ▲0.8 | ▲0.5 | 2.3 | 1.5 | 1.6 | ▲1.7 | ▲0.9 | ▲0.4 | 1.9 | 0.5 | 1.5 |
| 消費者物価指数 | ▲0.2 | ▲0.5 | 0.8 | 2.9 | 1.2 | 1.5 | ▲0.0 | ▲0.2 | 0.8 | 3.3 | 1.5 | 1.6 |
| 鉱工業生産指数 | 0.6 | ▲2.4 | 2.9 | 1.5 | 1.7 | 1.9 | ▲0.7 | ▲2.9 | 3.2 | 0.9 | 2.0 | 2.1 |
| 完全失業率 | 5.0 | 4.7 | 4.2 | 3.9 | 3.9 | 3.9 | 4.5 | 4.3 | 3.9 | 3.6 | 3.6 | 3.6 |

(注)単位%、完全失業率以外は前年度比伸び率。関西経済の2011年度は実績値、12-13年度は実績見直し、14-16年度は予測値。日本経済の13年度までは実績値、14年度以降は予測値。

関連事業のご紹介

9月2日、APIRフォーラム「足下の景気がよく分かる!! - 日米超短期モデル予測とESPフォーキャスト調査の見方・使い方-」を開催しました。APIRが毎週公表しているCQM(超短期経済予測)をもとに、景気判断のヒントを担当者がわかりやすく解説し、自治体の統計部門の担当者らを中心とする参加者が熱心に耳を傾けました。



APIR × APU (立命館アジア太平洋大学) 連携協定調印イベントを行いました。

APIRでは研究成果報告とタイムリーな話題をからめたシンポジウムやフォーラム等を随時開催しています。参加者募集はホームページやメールマガジンで行い、どなたでも参加できます。ここでは、5月に開催したAPUとの連携協定調印イベントをご紹介します。

開催記録

APIR [アジア太平洋研究所] × APU [立命館アジア太平洋大学] 連携協定調印イベント 今、地球水準～世界から「選ばれる関西」を目指して

■開催日 2014年5月12日(月)
■会場 グランフロント大阪 ナレッジキャピタル
タワーC 7階 ナレッジサロン

■概要

I. APIR・APU連携協定(MOU)調印式

- ナレッジキャピタルについて
野村 卓也氏(一般社団法人ナレッジキャピタル総合プロデューサー)
- 主催者あいさつと調印セレモニー
宮原 秀夫(APIR所長)
是永 駿氏(APU学長)
- 来賓あいさつ
井上 睦子氏(文部科学省大臣官房国際課国際戦略企画室長)
竹本 正道氏(グローバル人材活用運営協議会会長、日東電工株式会社相談役)
- APIR人材育成の取り組みについて
澤 昭裕(APIR副所長・事務局長)
山下かおり(APIRプロジェクトリーダー)

II. パネルディスカッション

- テーマ:「今、地球水準～世界から「選ばれる関西」を目指して」
～留学生を活用した関西の活性化推進に向けて～
- パネリスト 帯野 久美子氏(一般社団法人関西経済同友会 常任幹事、
文部科学省・第7期中央教育審議会委員、
株式会社インターアクト・ジャパン代表取締役)
藤沢 久美氏(シンクタンク・ソフィアバンク代表)
ジェーン・チョンブーウォン氏(株式会社日本公文教育研究会(APIR卒))
王 斯蒙氏(立命館大学政策科学研究科博士課程(APIR卒))
澤 昭裕(APIR副所長・事務局長)
 - モデレーター 坂本 和一氏(グローバル人材活用運営協議会顧問、立命館大学名誉教授、
立命館アジア太平洋大学初代学長)
 - 来賓あいさつ 合田 隆史氏(尚絅学院大学学長(前文部科学省生涯学習政策局長))
 - 閉会あいさつ 岩城 吉信(APIR代表理事)



人材育成に関する連携協定に調印

APIRとAPUは研究や人材育成に関して相互協力を行う連携協定に調印しました。主催者挨拶で宮原所長は「関西のみならず日本のグローバル人材育成のモデルとなるべく、この分野における研究活動を強化していきたい」、是永氏は「グローバル人材を活用した関西の活性化、ひいてはアジア太平洋地域の共存と発展に貢献していきたい」と述べ、連携協定を機に両者

が協力して、関西およびアジア太平洋地域の発展に資する人材育成の取り組みを進めることを確認しました。来賓挨拶で竹本氏からは「グローバル人材活用運営協議会も協力して、関西における留学生の就職支援を進めたい」と述べました。また、APIRより、連携協定の第一歩として高度外国人材受入促進に関する共同研究を実施し、留学生の就職活動実態調査やグローバル人材育成に関する研究等を行っていくことを報告しました。

行われました。藤沢氏からは「関西には海外の人材が活躍できる場が必要。また、APIRは研究だけでなく交流の場をつくるなど実行へも踏み込んでほしい」、帯野氏からは「具体的な戦略を立てるべきだ。例えばアジアへ出向いて現地でリクルーティングする、日本企業について情報発信するといったことも必要ではないか」との意見が出されました。(文責・事務局)

関西に活躍の場を/戦略が必要

調印式後、坂本氏をモデレーターにパネルディスカッションが行われ、関西が世界から選ばれるための課題、具体策について議論が



- [主催] 一般財団法人アジア太平洋研究所
- [共催] 立命館アジア太平洋大学、一般社団法人ナレッジキャピタル
- [後援] 文部科学省、経済産業省近畿経済産業局、大阪市、一般社団法人関西経済同友会、大阪商工会議所、公益社団法人関西経済連合会
- [協力] グローバル人材活用運営協議会